

令和6年度 第1回小平市社会教育委員の会議要録

と き：令和6年4月18日（木）午前9時30分～午前11時30分

ところ：市役所5階 503会議室

1 出席者

小平市社会教育委員 9人（1人欠席）

傍聴者 なし

2 内 容

- ・委嘱状交付式
- ・委嘱状交付後、議長に生尾委員、副議長に瀧野委員を選出

<議題>

資料に基づき、事務局から説明を行った。

- (1) 令和6年度小平市社会教育委員の会議等の開催日程について
- (2) 令和6年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会定期総会について
- (3) 令和6年度小平市社会教育関係団体に対する補助金交付について

<事務局報告>

各課・各館より、実施事業等について報告した。

【教育部】

- (1) 令和6年度各課・館事業概要等（地域学習支援課、公民館、図書館）について

【地域学習支援課】

- (1) 第20回小平よさこいスクールダンスフェスティバルin 2024について（報告）
- (2) 第17回多摩六都ヤング・ダンスフェスティバルについて（報告）
- (3) 令和5年度青少年リーダー養成講座について（報告）
- (4) 令和6年度青少年リーダー養成講座について

【公民館】

- (1) 公民館主催イベント（3月）について（報告）
- (2) 公民館主催イベント（5月）について

【図書館】

- (1) 図書館主催イベント（2月、3月について）（報告）
- (2) 令和6年度こだいら子ども読書月間について
- (3) 小平市立図書館の休館について

3 議題及び事務局報告についての意見・質疑応答

＜令和6年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会定期総会について＞

○委員 関東甲信越社会教育研究大会について。出席が議長、副議長のみになった経緯は。

○事務局 例年、社会教育委員の皆様に参加いただいていたが、各市の研究大会への参加状況の比較検討の結果や、予算の関係上から、議長、副議長のみの出席となった。

＜令和6年度小平市社会教育関係団体に対する補助金交付について＞

○委員 補助金制度について。内容は理解したが、費用対効果、経費負担のあり方、総合的な見直しなどの考え方について、どのような観点で考えているのか。

○事務局 補助金交付に対しての費用対効果、その事業に対しての効果検証については、実績報告の内容、その他事業に対しての意見等を踏まえて評価をしていくと考えている。

○委員 鈴木ばやし保存会について。会員数が203名もいる大きな団体であり、参考資料から、市内唯一の郷土芸能であり、小平市の無形民俗文化財でもあり、後継者の育成もしっかり尽力いただいていることが分かった。

しかし、補助金が4万9,000円であり、他の補助金交付団体と比較すると少ない。申請金額が少なかったということか。

○事務局 補助金の交付については、各団体からの申請に対して、各事業で定められている補助金交付要綱に基づいて交付している。交付決定の経緯については、文化スポーツ課の所管であるので、改めて確認する。

○委員 子ども文庫連絡協議会について。予算増減が唐突な感じがする。この経緯を伺いたい。実態に即し、そのようになっているのか。

○事務局 子ども文庫連絡協議会の件について、補足する。子ども文庫連絡協議会の皆さんは、これまで年に2回、図書館と共催で、講演会を実施してきた。

共催ではあるが、子ども文庫連絡協議会が講師の選定、交渉などを行ってきた。しかし、協議会のメンバーの減少などの課題もあり、これまでどおりの業務継続していくことは、現状、難しくなっていた。そのため、図書館で引き受けられる部分については、図書館の事業として引き受け、予算についても、図書館で講師謝礼などを支払うように変えている。

○委員 令和6年度の社会教育関係団体に対する補助金の交付に当たっては、本会議での意見などを踏まえ、適正な執行をお願いする。

＜事務局報告＞

○委員 公民館について。質問と意見を伝える。

講座の一覧表について。大変な作業で作られたと思う。

また、私は大沼公民館でWi-Fiを使わせていただいているが、自治会での会議がスムーズにセッティングできた。スピードも問題なく、ペーパーレスで進められたことがすごいと思う。

ている。大前進したと、自治会ですごく喜んでいて。感謝している。

講座の一覧表を見たとき、私の専門分野でもあるが、ソサエティ5.0になっていく世の中の流れの中で、その分野の行事がないと思った。先日、別の社会教育委員が理事をやっている、あすびあの会議で、生成AIを使ったチャットGPTの体験会に参加した。即日満員であった。年齢層も、20代から80代まで来ており、参加者からは、ぜひ使いたい、ぜひやりたいという意見があった。

そのような流れがある中で、このような一覧表が出てくる背景は、構成員の方々や事業企画委員の方々による、行事のニーズの吸い出しみたいなのがあって出てくると思った。

気になったのは定期講座の内容のこの7区分である。7区分というのは少し前から変わっていないと思うのだが、この区分は、講座内容と対象年齢も混ざったハイブリッド分類となっているというイメージに捉えている。

他市の分類では、西東京市は、対象年齢だけでつくっている。狭山市も、全部対象年齢を使っている。それらに対し、小平市はブレンドされたような分類になっている。講座内容で分類することで専門性が出てくることから、私はいいと思っている。ただ、対象年齢で分類をしていくことより、ニーズが取れるとも思う。いずれの方法も、メリット、デメリットがあるが、こういったニーズの吸い出しとか専門性を出していくとか、各館の特色性を出していくとか、地域差を出していくとか考えたときに、どのような方法で一覧表作成のプロセスを、今後考えていくのか意見を聞きたい。

○事務局 7区分については現在も変更はない。計画の6ページを見ていただくと、委員から指摘いただいた7区分ごとに、各館がどのような回数で実施をしているかというものを示している。

ただし、企画の際には、ターゲットをこの企画は高齢者の方を中心に、例えば地域支援についても、高齢者の方をターゲットにした企画するとか、もしくは現役世代を何とか呼べないかということで、夜間講座にしてみようなど、そういった工夫はそれぞれの分館で検討をしている。

その他、一覧表の下段には、その他の定期講座ということで、完全に特化したもの、たとえば、障がい理解に関する講座、もしくはジュニア、シルバー大学、そのような形で取り組むものや、女性セミナーという形で特化したものを、事業企画委員会とは別に、中央公民館で企画している。今後、ご指摘のあったソサエティ5.0の関連で、チャットGPTのような課題などについても私たちが認識していることから、その他の定期講座、パソコン講座などで、課題についてこれから取り上げていく必要があるだろうということは考えている。社会の動きを注視しながら、企画に盛り込んでいけるように今後も努めていく。

○委員 資料No.8のヤング・ダンスフェスティバルについて、感想と質問。まず感想について。当日拝見したが、高校生の自主性とか高校生の活躍する場が設けられて、ダンスもすごくクオリティが高くて感心した。また、学校ごとの特色も出ており、それを高校生が企画、運営しているのにも感心した。この成功体験が自己肯定感につながるという感じがすごくした。すばらしい企画と思った。

意見について、チケットの申込みについて。事前申込みということで、QRコードを読み込ん

でみたが、読み込んだ時点で申し込みが終了していた。割と早い段階で満席になったのだと思った。

チケットの申し込みについては、広域の方が、システムを見ることができることから、すぐに満席になるのは仕方ないと思うが、この方法にした結果についての評価をどのようにとらえているかの質問と、前半後半で分けるという取組もあってよかったと思うが意見を伺いたい。

また、個人的な感想であるが、来賓席が今回一番後ろだったことにより、以前は、前方の、スピーカーが近くの席で、スピーカーからの音声で耳が痛いくらいであったが、今回の座席は、ちょうどよかったと感じた。

○事務局 今回から、無料の電子チケット販売システムの t e k e t を利用した。それまでは、当日、会場に並んでいただき、先着順で入場していた。そのため、入場を待つ方の行列が長くて、お待たせすることになっていた。また、近隣にもご迷惑がかかることがあった。そこで、担当で検討した結果、無料のチケットの予約アプリを今回活用するという事となった。

システムを利用しても、会場に早く来られる方は若干いたが、以前と比較すると、緩和されたと考えている。また、希望の席を確保するために並ぶ心配が解消されたことで、落ち着いて座席につけたのではないかと、そのような効果はあったのではないかと考えている。

ただし、一日中、同じ席で鑑賞することになり、入れ替えて鑑賞を希望する方には、チケットがうまく取れず、見たかったダンスを見られなかった方がいるかもしれない。機会を均等に合わせるができなかったことについては、少し反省があるのかもしれない。今回は、初めての取組であったので、効果の検証を改めて行い、次回に生かしていければと思っている。

なお、来賓席は後ろのほうにしたいと思っている。

○委 員 今回使用したシステムは、P e a t i x か。私は、P e a t i x というシステムを使用して、昨年度、科学の祭典を行った。混雑は防げたが、参加するしないに関わらず、予約を先に取ってしまう人がいて、イベントを開始してみると、空席があった。そのため。その配布の仕方もいろいろ考えなければいけないと思った。

科学の祭典は、1万人規模で来場する可能性のあるイベントなので、来場者が集中することで生じるトラブルも用心し、午前の部、午後の部に分け、また、各回に何名までと入場数を制限して実施した。しかし、システムの予約の段階で、複数席を確保する人がいて、確保した席のうち利用しなかった席が空席となってしまったことから、次回の開催のため、情報提供した。

○事務局 提供いただいた情報を参考とさせていただき、次回に向けて考えたいと思う。

○委 員 2点ある。1点目は、公民館に関して。質問というよりかは感謝である。令和6年度に小川西町公民館と上宿公民館にW i - F i が入り、2館であるが、前進してきたかなということで、本当に感謝している。引き続き、全館への設置をお願いする。

また、図書館についても花小金井図書館、小川西町図書館にW i - F i が入る。社会教育施設は市の大きな財産であって、災害時には本当に重要な施設ともなる。日常的に、W i - F i が使えることとなると、公民館講座の考え方も変わり、企画の仕方も変わってくるかと思う。

もう一点は質問である。。図書館に関して。資料No.6-2の一番最後6ページである。

図書館の令和6年度の予算について、前年度と比べると増減が大きい。増額に関しては先ほどいただいたが、減額について、例えば31番の図書館情報総合管理システムの運営費、44番の西部市民センターの施設管理に関しては、100万円単位での減額である。何か特徴的なことがあれば教えてほしい。

○事務局 図書館情報総合管理システムについて。これは図書の貸出しのシステムやホームページの関係の運営予算ということになる。システム関係は、導入をしてから5年間程度使用して、新しく入替えをするということを繰り返して行っている。、令和6年度については、入替えの予定をしていた年であるが、入替えをせずにもう1年延ばして再リースとした。再リースに切り替えたことで減額となっている。

次に、西部市民センターの施設管理である。368万4,000円程度の減額となった。理由としては、電気料金が下がったことによるものである。電気料金については、西部市民センターに限らず、いずれの館も下がっているが、西部市民センターは、令和8年度に移転を予定しており、施設の改修については、他の館と比べ少ない。他の館では、空調設備の入れ替えなど、様々な設備を更新していることから、支出がするものが多く、このような数字となっている。

○委員 公民館事業計画の高校生事業企画委員会について。参加している高校生の人数と、具体的な活動内容について知りたい。

○事務局 まず人数について。市内には公立と私立の高校が7校あり、そのうち、現在5校の高校生の皆さんがご参加している。企画委員会という会議を行い、各学校から5名程度、全体で10人から20人程度の方が集まり、会議をしている。

次に具体的な活動内容について。令和4年度は、令和5年3月に実施した公民館まつりにおいて、白梅清修中高一貫校の高校生の皆さんが、マゼンタ・スターに関する講演会を企画運営して、この缶バッジを作り、市民の皆さんと交流した。

令和5年度は、創価高校の皆さんが、地域の皆さんと交流したいという希望があり、地域清掃を行った。具体的には、玉川上水周辺を掃除し、終了後はボーイスカウトの皆さんと合流して、餅つき、焼き芋を行った。おおよそ200人ぐらい集まって、市民の皆さんと交流した。

その他、錦城高校さんは、小平駅の北口の通路の点検を行い、点検後はFC東京さんで、教育委員の吉本委員や、元Jリーガーの皆さんと交流を行った。

令和6年度は、今週の日曜日に、市民のお料理の先生にお菓子づくりを教わった高校生の皆さんが、高校生にお菓子づくりを教えるという講座が開催される。今年度も、このような講座を、高校生の皆さんに企画、運営をしていただき、いろんな体験をしていただいて、公民館を利用していただくことを継続していきたいと考えている。

○委員 図書館の事業計画にある、図書館のブランディングについて。具体的なイメージは。

○事務局 図書館のブランディングは、館内の表示について、なるべく統一的で、分かりやすい表示を目指すことを行っている。館内の表示を統一し、利用者の方が見やすい、分かりやすい表示にしている。

具体的には、数年前に、武蔵野美術大学の学生さんにデザインをしていただいたフクロウをモ

チーフとしたデザインで表示を作成している。

また、フクロウのデザインを用いた、マスキングテープなどのグッズを作成して販売をしている。

○委員 昨年、図書館の事業説明で、省エネに関する事業があった。今年度はないが、終了したのか。

○事務局 令和5年度、図書館の照明のLED化を実施し、利用者の皆様にはご迷惑をおかけしたが、工事は完了した。照明のLED化は、環境省が推奨しているESCO事業を活用した。

今後は、照明をLED化したことで、電気料金が下がるが、その差の電気料金15年間分を原資として、工事、維持管理の費用を、15年間委託料として、ESCO事業者へ払うものである。